

高等部 第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 『源氏物語』（東京書籍）

2 単元指導計画（8／10時間）

（1）単元目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
敬語や係結びなどの表現技法、和歌の修辞法などを正しく捉え、読解や現代語訳に役立てる。	文章の内容や、人物像、和歌に込められた思いを的確に捉え、ものの見方や考え方を深める。	古人の思いや考えを理解し、現代の人間や社会などと比べ自分なりの考えを形成しようとする。

（2）指導計画（全10時間）

	単元	時数	評価規準
1次 (導入)	○「源氏物語」について知る。 ・作者、成立年などについて、確認する。	1	・作品に関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。【主】
2次 (展開) 「光源氏の誕生」	○「光源氏の誕生」を読解する。 ・本文を読解し、内容を読み取る。 ・敬意の方向を捉える。	2	・文法事項に留意しながら、適切に内容を読解することができる。【思・判・表】 ・敬語を捉え、敬意の方向を理解している。【知・技】
	○周囲の人々の桐壺の更衣への心情を捉える。 ・帝が桐壺の行為を寵愛することに対して、周囲の人々がどのように思っていたのかを捉える。 ・桐壺の更衣の心情を捉える。	1	・人物関係を理解し、桐壺の更衣の心情を捉えている。【思・判・表】
3次 (展開) 「若紫」	○「若紫」を読解する。① ・登場人物を確認し、整理する。	1	・登場人物の動きと、話の概要を理解している。【思・判・表】
	○「若紫」を読解する。② ・物語上における登場人物の描写を通して、当時の美的感覚を知る。	1	・登場人物の描写の特徴を理解している。【思・判・表】 ・平安時代の恋愛の仕方から、当時の人々の美意識や美的感覚を読み取る。【思・判・表】
	○「若紫」を読解する。③ ・和歌の解釈を通して、登場人物の少女に対する心情を捉える。	1	・尼君と女房の歌に共通して詠まれている、心情を読み取ることができる。【思・判・表】 ・敬語を捉え、正しい敬意の方向で訳することができる。【知・技】
	○「若紫」を読解する。④ ・伊勢物語「初冠」との比較から、光源氏の若紫への思いを捉える。	1 本時	・「初冠」との共通点や相違点をあげようとしている。【主】 ・登場人物の心情を考え、自らの意見や考えを発表している。【思・判・表】
	○「若紫」を読解する。⑤ ・「若紫」の今後の展開を知る。	1	・「若紫」の今後の展開を理解することができる【知・技】
4次 (まとめ)	○「源氏物語」の広がりを知る ・その後の文学や芸術に与えた影響について、調べる。	1	・「源氏物語」全体の内容について知ろうとしている。【主】 ・「源氏物語」の影響や広がりについて知ろうとしている【主】【思・判・表】

3 本時の指導

(1) 本時の目標

【生徒】：他者と意見と自分の考えを比較したり、他の情報と照らし合わせたりしながら考えることができる。
本文に込められた登場人物の心情や情景を捉え、発表することができる。

【教師】：生徒の読む、考える、話す時間を十分に確保し、思考を促すことができる。

(2) 展開

●：評価内容 ○：留意事項 ※：自立活動の配慮事項

	教師の発問・働きかけ	予想される幼児児童生徒の反応	指導上の留意点・評価
導入 (5分)	1. はじめのあいさつ 2. 前時の復習 ・現在の光源氏の状況を確認する。 3. 課題の確認	・あいさつをする。 「光源氏は垣間見して、少女と尼君のやりとりを見えています。」	※聞こえの確認をする。 ※生徒の発表が正確に伝わっているか確認し、必要に応じて手話や指文字で確認する。 ※抽象的な答えには、理由を付けて話すよう促す。
光源氏は少女へどのような想いをもっていたのだろうか。			
展開 (35分)	4. 光源氏の少女に対する心情を考える。 「光源氏は少女に対して、どのような想いをもっていますか。」 5. 伊勢物語「初冠」との相違点を捉える。 「同じような情景の学習を以前したことがありますか、覚えていますか。」 「『若紫』と『初冠』の異なるところを挙げてみましょう。」 「比べてみて、気づいたことや疑問に思ったことは、ありますか。」 「なぜ、光源氏は少女に和歌を贈らなかったのでしょうか。」	・本文中の根拠をもとに、光源氏の少女に対する心情を考え、OneNoteで共有する。 「可愛いし、ずっと見ていたい。」 「大人になるとより綺麗になると思っている。」 「少女には藤壺の面影があると思っている。」 ・伊勢物語「初冠」と比較し、異なる点から光源氏の心情を推測していく。 「初冠だと思います。」 「『初冠』では、すぐに和歌を送ったのに、光源氏は和歌を送っていない。」 「光源氏からの和歌の描写がないのではないか。」 「あまりにも可愛すぎて見惚れていたのではないか。」 「さすがに10歳の少女に、和歌を贈るのは気持ち悪がられると思ったのではないか。」 「育ての親がいるところでは難しかったのかもしれない。」	●本文から心情を、理由も含めて、発表することができたか。 【発表】 ○話し合いのゴールは「光源氏の少女に対する心情を捉えること」だということを確認する。 ○思い出せない場合は、過去のノートや学習を振り返る。 ○OneNoteに「初冠」の本文と現代語訳を載せる。 ○交流の際は、質問や意見を積極的に話すよう促す。 ○テレビに映す係、話し合いの記録をする係を決めるよう促す。 ○心情や状況が読み取れない場合は、尼君の立場に立って考えるよう促す。

	<p>6. 光源氏の少女に対する心情を再度、考える。 「では、結局、光源氏の心はどこに向かっているのでしょうか。」</p>	<p>「藤壺のことが諦めきれないのかもしれない。」 「結局は藤壺を愛している。」 「もしかして、藤壺を作ろうとしているのではないか。」</p>	<p>●他者の考えや意見に耳を傾け、自分の考えの参考としているか。 【話し合い】 ○少女が「藤壺」と似ていることを改めて振り返る。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>7. 読み取った光源氏の心情を発表する。</p>	<p>・OneNoteに、自身の考えを書き、共有し、発表する。 「少女を身代わりとして、藤壺に仕立て上げようとしている。」 「藤壺が手に入らないから、少女を育てて、藤壺に近づけようとしている」など</p>	<p>○他の生徒が注目していることを確認し、はっきり話すよう促す。 ●多角的に光源氏の心情を捉え、考えをまとめているか。【記述】 ●読み取った光源氏の心情を、自分の言葉で発表することができたか。【発表】</p>
	<p>8. 垣間見の場面後の、光源氏の思いを紹介する。</p>	<p>・垣間見の場面後の光源氏の想いを知り、感想を交流する。 「そこまで少女に執着していることから、本気で藤壺のようにしたいのだと思った。」 「藤壺の身代わりにさせられる少女が可哀想だ。」など</p>	<p>○本文と現代語訳を合わせて提示する。</p>
	<p>9. おわりのあいさつ</p>	<p>・おわりのあいさつをする。</p>	

(3)評価

【生徒】：他者と意見と自分の考えを比較したり、他の情報と照らし合わせたりしながら考えることができたか。
物語に込められた光源氏の心情や情景を捉え、自身の考えを発表することができたか。

【教師】：生徒の読む、考える、話す時間を十分に確保し、思考を深める発問ができていたか。